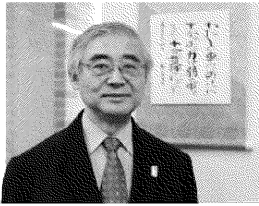


〈 目 次 〉			
挨拶	全国壮年会連合会長	高良研一（恵泉教会）	1
歓迎のことば	大会実行委員長	戸田浩司（西川口教会）	2
2 0 2 5 年 度 第 6 0 回全国壮年大会プログラム		大会実行委員会	3
大会テーマ 「これからの No Border な教会の話をしよう！ ～教会が「教会」であり続けるために～」 講演 朴 思郁 宣教研究所・西川口教会 牧師			7
分団 分かち合い 神学校の時間（アピール） 事例報告（北関東地方連合） 全国壮年会連合 総会報告・アピール オプションプログラム 教会訪問			
2 0 2 5 年 度 総会議案・資料 目次			
資料			
* 全国壮年連合活動カレンダー * 西南学院大学神学部報告 * 2025年度神学部出張公開講座のご案内 * 西南学院大学神学部神学コース・東京バプテスト神学校・九州バプテスト神学校専攻科学生一覧（2025年度） * 各教会・伝道所神学校献金・全国壮年会連合会費納入一覧（2024年度） * 各地方連合の神学校献金納入状況一覧、全国壮年会連合会費納入一覧 （2017年度～2024年度）8年間 * 各教会・伝道所神学校献金・全国壮年会連合会費納入一覧 （2017年度～2024年度）8年間 * 全国壮年会連合規約集（2025年3月31日現在） * 全国壮年大会と全国壮年会連合の歩み			

第60回（2025年度）全国壮年大会開催に期待して

日本バプテスト連盟 全国壮年会連合 会長 高良 研一（恵泉教会）



全国の諸教会・伝道所の壮年の皆様を始め、各教会員の皆様、

主の御名を心より賛美致します。そして、60回全国壮年大会を一昨年に引き続いて、対面（オンライン併用で）開催出来ますことを大変嬉しく思います。

この度は、8年振りとなりますが、北関東地方連合壮年会の方々により全国壮年大会が対面（オンライン併用）で開催されることになりました。2009年の全国壮年大会は、北関東の壮年の皆さんによって、茨城県のつくば国際会議場で開催され、私は当時60才になったばかりでしたが、福岡より参加いたしました。

コロナも大分落ち着いてきましたが、教会に於いてはなかなかコロナ前に戻っていないところも見受けられますが、私の恵泉教会ではまだ愛餐会を再開できていない状況にあります。今回は、対面での良き学びの機会と分かち合いと交わり、そして、全国の壮年の皆さんのこれからの大いなる働きとその歩みに期待しております。

今年の全国壮年大会は、浦和教会において対面（オンライン併用）にて、
「これからの NO BORDER な教会の話をしよう！

～教会が「教会」であり続けるために～

というテーマで、朴思郁宣教研究所所長を講師に迎えて、学び、分団での分かち合い等から、今後の私達の教会の歩みのために良き示唆を得たいと願っておりますので、どうぞ、今からご予約いただけましたら幸いです。また、諸事情で対面にて参加できない方々には、是非ともオンラインでのご参加をお待ちしております。

私達、日本バプテスト連盟全国壮年会連合の働きとして、「伝道者養成と教会形成」を担うことを掲げていますが、バプテスト教会員で3つの神学校で学ぶ神学生は、西南大神学部神学コース5名、専攻科の東京バプ2名・九州バプ7名と大変少なくなってきています。そのために、喫緊の課題として、これらの神学校で学ぶ神学生、献身者が起こされるように祈りを積み重ねていかなければならないのです。

そして、私達全国壮年会連合は、

①神学校献金の推進（連盟と共に）

（東京バプ・九州バプへの奨学金支給に加え、運営資金の援助（合計年350万円）を今年度より開始します。

②奨学金制度の運営（連盟から委託されている）

③献身者の掘り起こし（西南大神学部、東京バプ・九州バプで学ぶ神学生）

④バプテスト信徒としての学び

⑤教会形成のための協力伝道

の5つの働きをしっかりと推進していきたいと願っております。また、新たな課題として、属性（性別、既婚・未婚、年齢等）によらない、ビジョンに基づく働きを推進するべく、全国壮年会連合の組織の在り方を検討していくことにしておりますので、どうぞご理解のほどよろしくお願いいたします。

全国壮年会連合の定期総会は前日の8月21日(木)に文書による総会とさせていただきますので、その結果報告を本大会の中で簡単にさせていただく予定ですので、よろしくお願いいたします。

最後に、熱い最中ではありますが、大会準備にあたっておられる北関東壮年の大会実行委員会（戸田浩司委員長）の皆様のお働きが豊かに祝されますように、そして、北関東の皆さんの「熱い」聖霊の風に期待して御祈りつつ、皆さんと浦和教会で是非とも、対面でお会いできたらと願っております。



主のみ名を賛美します。

今年の全国壮年大会は第60回という、ある意味記念すべき大会と捉えられると思います。人生に例えれば還暦ということになりますが、それほど長く続いてきたこの全国大会は文字通りこれまで全国の壮年の方々の手によって企画運営され実行されてきました。

私はその経緯、詳細を存じあげてはいないのですが、これまでの歴代の運営・実行に携わってこられた方々のご努力と労苦がどれほどのものだったかと想像し、この大会を運営・実行することは本当に大変なわざであることを痛感しているのと同時に、その大変さを上回る主の豊かな恵みと導きとがあったのだらうと確信します。

今、実行委員長をさせていただいて思うのは、実行委員をはじめ大会運営関係者の皆さんと協力して準備にあたっている中で「協働」という予想外の大きな恵みをいただいていることと主の導きをを実感する場面が多くあるなあということです。心から主に感謝します。

さて今回の大会テーマは「これからのNo Border な教会の話をしよう!～教会が「教会」であり続けるために～」です。私たちは性別や国籍、宗教、社会的立場など様々なボーダーを意識する局面が多々あり、時にそれらのボーダーにとらわれ、不自由な思考、行動に陥ってしまうこともあるのではないのでしょうか。イエス様は当時の宗教的、社会的なボーダーを越境し、悩み苦しんでいる多くの人々に救いの手を差し伸べられました。現代におけるボーダーについてともに考え、分かち合ってみませんか。

今回は対面とオンラインでのハイブリッド形式で開催しますので、参加可能な方法をお選びいただけます。また「壮年大会」ではありますが、性別、年齢等問わずどなたでもご参加いただけます。当然のことながらNo Border です。多くの方のご参加を心から歓迎します。お待ちしております。

主にありて

講師紹介



朴 思郁（ばく さうく） 宣教研究所所長・西川口教会牧師

韓国ソウルのクリスチャン家庭で育ち、長老派神学校卒業後、牧師の道を歩み始めました。1998 年に来日し、その後、西南学院大学神学部で学びを深めました。

2000 年から茗荷谷キリスト教会で 13 年間牧師を務めた後、2013 年に日本バプテスト連盟宣教研究所の所長に就任しました。所長就任後、2017 年には米国クレアモント神学校で牧会学博士を取得しました。

西川口キリスト教会では、2014 年から協力牧師として務めた後、2024 年に牧師として就任しました。

「あなたは、適格者と認められて神の前に立つ者、恥じるところのない働き手、真理の言葉を正しく伝える者となるように努めなさい」（テモテへの手紙二 2 章 15 節）を座右の銘にし、他者との深いつながりを大切にすることを心がけ、日々信仰に生き、その教えを実践するよう努めています。

音楽・映画鑑賞、読書、コーヒー自家焙煎、料理、山歩きなど多彩な趣味を楽しんでおり、互いの違いを超えて共に成長できる教会共同体の形成を目指しています。

開会礼拝宣教者



本山 大輔（もとやま だいすけ） 浦和教会牧師

福岡県北九州市出身。西南女学院短期大学附属シオン山幼稚園にて、イエス・キリストと出会いました。関西学院大学神学部に進学し、神学修士号を取得。その後、日本バプテスト病院牧師室にて、臨床牧会の現場で貴重な経験を積みました。日本バプテスト病院を退職後、さらなる学びを求めてアメリカに留学。帰国後は、日本バプテスト連盟・豊前キリスト教会の牧師に就任しました。在任中は、西南学院高等学校および西南女学院大学で非常勤講師も務めました。

2025 年 4 月より、浦和教会の牧師に就任。「神と人に仕えること」を牧会のモットーとし、聖書の言葉に耳を傾け、ともに生きる歩みを大切にしていきたいと願っています。

開会礼拝説教者



坂本 献（所沢教会牧師、北関東地方連合会長）

1961 年バプテスト教会の牧師の子として生まれる。10 歳の誕生日にバプテスマを受ける（丁度、ペンテコステ）。日本大学芸術学部を卒業後、常盤台バプテスト教会の推薦を受け西南学院大学神学部・同専攻科卒業。最初の赴任地は「兄湯キリスト教会（宮崎県）」。その後「福岡有田バプテスト教会」牧師を経て 2004 年度から「神戸バプテスト教会」牧師並びに「光の丘幼稚園」の園長。2013 年度より「所沢キリスト教会」牧師に就任、現在に至る。

「日本バプテスト連盟理事（2 期）」「日本バプテスト連盟教会音楽専門委員」等を歴任。現在「北関東地方連合」会長。関心があるのは教会の礼拝などに欠かすことのできない「教会音楽、讃美歌」の研究。「主の御用のため」と思って活動しているうちに色々なことができるようになった。趣味はドラム演奏や作曲、簡単な大工仕事。今回の全国壮年大会で多くの方々にお会いできるのを楽しみにしている。

60回全国壮年大会参加に関するご案内

登録締切日を6月30日（月）に変更します。

大会参加の登録締切日は6月13日（金）とご案内しておりましたが、全国壮年会連合総会代議員の登録日変更に合わせて、大会参加登録期限を6月30日（月）に変更しますのでご承知ください。

1. 登録方法は、QRコード（または「きたかんWEB※」で検索）から特設サイトを通してお申込みが可能です。

パスワードは「noborder60」（半角）です。

また、「登録」（Google フォーム）がご利用になれない方は、特設サイト内「資料ページ」ボタンからExcelファイルをダウンロードしてご利用ください。



この特設サイトでは大会開催に関する最新情報を更新するようにしていますので定期的にご確認いただけますと幸いです。

もし、期限内に登録できない場合は、下記「お問い合わせ先」にご連絡ください。特設サイトが開かれている期間は登録が可能です。

※「きたかんWEB」 <https://church-church.com/sounen2025>

2. 大会および愛餐会の参加費は、7月25日（金）までに指定の口座にお振込みください。口座情報は特設サイトに記載しています。大会当日の会場での参加費納入はご遠慮ください。またZoomのID、パスワードは7月下旬に公開します。お手数ですが、その時期に特設サイトでご確認ください。

●お問い合わせ先 todakouji81@gmail.com

第60回全国壮年大会実行委員長 戸田浩司（西川口教会）まで

第60回全国壮年大会 プログラム(予定)

主題:「これからのno borderな教会の話をしよう」
～教会が「教会」であり続けるために～

<第1日目 8月22日(金)>

開始 ～ 終了	プログラム名	所要時間	奉仕者等
11:30 ～ 12:30	受付	60分	
12:30 ～ 13:15	開会礼拝	45分	
13:15 ～ 13:30	会長・来賓挨拶	15分	
13:30 ～ 13:45	オリエンテーション	15分	
13:45 ～ 13:50	準備	5分	
13:50 ～ 15:15	講演	85分	
15:15 ～ 17:45	団体 分かち合い	150分	
17:45 ～ 18:45	神学校の時間 (アピール)	60分	
18:45 ～ 18:55	準備	10分	
18:55 ～ 19:55	愛さん会	60分	

<第2日目 8月23日(土)>

開始 ～ 終了	プログラム名	所要時間	
9:00 ～ 10:30	事例報告 (北関東地方連合)	90分	
10:30 ～ 11:30	全国壮年会連合 総会報告、アピール 等	60分	
11:30 ～ 12:00	閉会礼拝	30分	

12:00以降	オプションプログラム 教会訪問 (内容の詳細については第60回全国壮年大会特設サイトでお知らせします)
---------	--

第60回全国壮年大会参加　　＜書面での申込書＞

【送信先】

totakouji81@gmail.com

戸田浩司

本申込書を添付資料としてメールでお送りください。画像データでも結構です。
登録に関するお問い合わせは上記メールアドレスまたは090-2406-9339 大城戸一彦にお願いいたします。

教会・伝道所_略称可

登録者名	メールアドレス 代表者は必須	日中連絡☎番号 代表者は必須 ハイフオン抜	参加形態		愛燦会 参加 マーク	代議員 マーク (3名まで)	※ 参加費用 手計算記入
			マーク 会場	遠隔			
代表							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
連絡等)						参加費合計	0

参考用

ダウンロードしたExcelファイルをご利用ください

※1 参加費は一人当たり、会場：2,000円、遠隔：1,000円（全日・平日同額）、愛燦会：1,500円です。
※2 振込先は三菱UFJ銀行 新宿中央支店（469） 普：4968519 オオキドカズヒコです。

2025年度日本バプテスト連盟全国壮年会連合定期総会(8月21日)議案・資料

報告1 2025年度全国壮年会連合選挙管理委員会設立の件
報告2 第61回(2026年度)全国壮年大会及び2026年度全国壮年会連合の定期総会について
協議 属性(性別、既婚・未婚、年齢)によらない全国壮年会連合の今後の在り方について
議案1. 第60回(2025年度)定期総会議長の選任の件
議案2. 2025年度全国壮年会連合副会長選任の件
議案3. 奨学金委員補充の件
議案4. 2024年度全国壮年会連合諸活動報告、決算、監査報告に関する件 4-1 2024年度全国壮年会連合活動報告 4-2 2024年度全国壮年会連合一般会計決算報告 4-3 2024年度全国壮年会連合奨学金委員会活動報告 4-4 2024年度日本バプテスト連盟神学生奨学金会計収支報告 資料: 2024年度日本バプテスト連盟神学生奨学金会計決算報告 4-5 2024年度監査報告
議案5. 2026年度 神学校献金目標額設定案の件
議案6. 旅費交通費に関する規程の制定について
議案7. 2025・2026年度全国壮年会連合活動計画案
議案8. 2025年度 全国壮年会連合一般会計修正予算(案) 及び2026年度 全国壮年会連合一般会計予算(案)の件
議案9. 2025-2026年度 全国壮年会連合奨学金委員会活動計画(案)
議案10. 2025年度 全国壮年会連合奨学金会計修正予算(案) 及び2026年度 全国壮年会連合奨学金会計予算(案)の件
議案11. 今期選挙管理委員の任期の変更の件(1年間のみの期間としての承認を得る)
議案12. 2026-2027年度全国壮年会連合役員選挙の件
議案13. 2026-2027年度全国壮年会連合奨学金委員長選挙の件
議案14. 第62回(2027年度) 全国壮年大会担当地方連合の件
議案15. 第61回(2026年度) 総会議長の件

資料

- * 全国壮年連合活動カレンダー
- * 西南学院大学神学部報告
- * 2025年度神学部出張公開講座のご案内
- * 西南学院大学神学部神学コース・東京バプテスト神学校・九州バプテスト神学校専攻科学生一覧(2025年度)
- * 各教会・伝道所神学校献金・全国壮年会連合会費納入一覧(2024年度)
- * 各地方連合の神学校献金納入状況一覧、全国壮年会連合会費納入一覧(2017年度～2024年度)8年間
- * 各教会・伝道所神学校献金・全国壮年会連合会費納入一覧(2017年度～2024年度)8年間
- * 全国壮年会連合規約集(2025年3月31日現在)
- * 全国壮年大会と全国壮年会連合の歩み

報告 1

2025 年度全国壮年会連合選挙管理委員会設置の件

全国壮年会連合規約細則第 23 条 2 項により、代表者会議で地方連合壮年会長の中から以下の方々を選出しましたので報告させていただきます。

西島 啓喜（北海道連合壮年会長）

向井田 洋（東北連合壮年会長）

戸田 浩司（北関東連合壮年会長）

森 三樹（神奈川連合壮年会長）

委員の互選により委員長は、向井田洋さんに決定いたしましたので、合わせて総会で報告させていただきます。

一応、新たな選挙管理委員会の任期は、2025 年度第一回代表者会議後から、2027 年の第一回代表者会議までとなっています。（議案として、今回のみ 1 年任期とする予定です。）

細則 23 条によると、その職務は、

- (1) 選挙公告と公募
- (2) 立候補の受付、立候補資格の審査
- (3) 総会への立候補者の報告と選挙管理

となっています。

報告2 第61回（2026年度）全国壮年大会及び全国壮年会連合定期総会について

第61回（2026年度）全国壮年大会は昨年の全国壮年会連合の定期総会で関西地方連合に担当していただくことになっております。

その後、日本バプテスト連盟研修委員会担当の第1回バプテストフェスティバルは、2026年8月6-8日に西南学院大学で開催されることが決まり、研修委員会より、全国壮年会連合と女性連合に対して、共催ということで、このバプテストフェスティバルを開催できないかとの申し入れがありました。そして、全国壮年会連合から委員を2名出してほしいとのことです。バプテストフェスティバルは、6日(木)の午後2時より開始し、8日(土)の12時に終了予定とのことです。

つきましては、全国壮年会連合としては、今回の第1回バプテストフェスティバルについては共催として関わり、全国壮年大会としては、6日(木)の午前11時半より、昼食を含めて午後1時半までの2時間を使って、西南学院大学で開催することにしました。

合わせて、コロナ以降、全国壮年会連合の定期総会は文書による総会としておりますので、少なくとも2026年度までは、全国壮年大会の前日に開催する文書による総会としたいと考えております。よって、2026年度の定期総会につきましても、来年8月5日(水)に連盟事務所で、関係者による文書による総会を開催したいと思います。

よって、これまで行っておりました以下のプログラムがありますが、

- ①開会礼拝
- ②大会主題に基づく講演（からの学び）
- ③壮年同志の交わり（分科会や食事）
- ④直前開催の全国壮年会連合の総会の報告
- ⑤神学生の証
- ⑥各神学校のアピール
- ⑦女性牧師・主事の会のアピール
- ⑧神学校献金推進委員会からのアピール
- ⑨次年度の大会アピール
- ⑩閉会（派遣）礼拝

バプテストフェスティバルのプログラムによりますが、⑤、⑥、⑦については、バプテストフェスティバルのプログラムに期待するか、できないならばやむを得ないということになります。

- ③壮年同志の交わり
- ④直前開催の全国壮年会連合の総会の報告
- ⑤神学校献金推進委員会からのアピール
- ⑨次年度の大会アピール

を昼食を取りながら、2時間の中で開催したいと考えます。

第61回全国壮年大会の担当は関西地方連合と決まっておりますので、共催します第1回バプテストフェスティバルの実行委員会の委員としては、全国壮年会連合から、高良研一会長と関西地方連合の稲川仁事務局長とします。

以 上

協議

属性（性別、既婚・独身、年齢）によらない

全国壮年会連合の今後の在り方について

全国壮年会連合に属する教会・伝道所の壮年会（兄弟会）の働きは、1978年の全国壮年会連合の設立以来、「基本的に」男性のみで行われてきました。

しかしながら、全国の諸教会では、壮年会（兄弟会）や女性会という組織が無くなってきているという、昨今の状況を踏まえて、属性（性別、既婚・独身、年齢）によらない全国壮年会連合の今後の在り方について確認していきたいと考えております。

因みに、「東京地方壮年連合」（東京地方連合壮年会）では、2023年11月23日開催の東京地方壮年連合の定期総会で、「東京地方壮年連合の組織の見直しについての基本方針として」の中で、「男性のみならず、誰でも参加できる組織とする」ということが承認され、昨年11月23日開催の同定期総会では、「組織の見直しについての基本方針に基づく規約改正案」が承認されました。それによりますと、会員の要件では新たに、「性別および既婚、未婚を問わない。目安として満30歳以上であること」が規約に盛り込まれました。

伝道者養成と教会形成の働きを担う全国壮年会連合としては、この働きに共鳴して、その働きを担っていただける方は誰でも属性（性別、既婚・独身、年齢）によらないで、参加できる全国壮年会連合の働きを目指していきたいと考えております。

この件に関しまして、今年の2025年度の総会（文書総会）においては、「協議」ということで、まずは、7月5日（土）の議案説明会にて、広く皆様のご意見を伺いたいと考えております。それを踏まえて、可能ならば、来年度の総会で全国壮年会の在り方について議案として提案していきたいと考えております。

以 上

議案1 第60回（2025年度）全国壮年会連合総会議長の選任の件

第60回（2025年度）全国壮年会連合の総会の議長は、関西地方連合から出していただくことが、昨年の定期総会で承認されておりますが、昨年度の総会時点で議長を具体的に指名することができませんでしたため、「関西地方連合から選出する」ことを提案し、承認されておりましたが、今回、全国壮年会連合規約細則第18条1号により、以下の通り、2025年度の総会議長を推薦いたします。関西地方連合の檜崎 宣夫（田辺教会）さんに依頼することになりましたので、ご承認願います。

任期 2025年度の定期総会より、2026年度の定期総会まで。

議長団	役職	氏名	地方連合	所属教会・伝道所
	議長	檜崎 宣夫	関西	田辺
	副議長	小平 公憲	神奈川	逗子第一
	書記（開催地）	原田 潔	北関東	浦和
	書記（役員会）	木村 均	東京	大井

議案 2

2025 年度全国壮年会連合副会長の承認の件

そもそも、全国壮年会連合の細則では、副会長の職務として、「副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは会長の職務を代行する」とあり、具体的には年 1 回開催されています、神学校献金推進委員会議の責任者の働きを担っていただけてきました。

2024～2025 年度の全国壮年会連合の副会長は、やむなく、稲川 仁副会長・事務局長の兼任ということで総会承認を得てきました。しかしながら、2024 年度の監査より、兼任はまずいということで、新たに副会長を選任すべきとの指摘を受けましたので、昨年 11 月に開催されました全国代表者会議にて、役員候補者（副会長）委員会を立ち上げました。

その後、同委員会からの提案により、赤塚教会員の星 文也さんに依頼することになり、ご本人より内諾を得ましたので、この度、全国壮年会連合副会長を、同氏に 2025 年の 4 月に遡り、就任していただくことにしましたので、承認をお願いいたします。

任期 2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

議案 3

2025 年度奨学金委員の補充の件

今年度の奨学金委員 1 名に欠員が生じたため、全国壮年会連合奨学金制度に関する規程の第 5 条の 2 項および 4 項に基づき、北村愼二奨学金委員長の名指により、向井田洋さん（仙台教会）を奨学金委員として選任させていただきましたことをご報告申し上げます。任期は 2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日となります。

議案 4－① 2024 年度全国壮年会連合活動報告〈案〉

＜主題＞ 「私と教会が元気になるには」

コロナが5類となり、これまで、できなかった事柄をぼちぼちと気を付けながらできるようになってきた。そこで、まずは主にある仲間との交流、交わり、祈りや学び、そして、協力伝道の実践かと思われる。これらを通じて、私が元気になり、教会も元気になることができるように願う。その為に、まずは、自分の周りで、教会で、近隣の教会と、地方連合壮年会で、また、全国レベルで実践出来たらと期待している。その為の対応を色々と積み重ねて行きたいと考えている。

＜聖句＞「二人は、『道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか』と語り合った。」ルカ24章32節(新共同訳)

《活動方針》

全国壮年会連合規約の第4条では、「各教会の壮年会等が相互の啓発をはかり、交流親睦を深めると共に(協力)伝道活動を積極的に協力し合うことを目的とする。」と記載されており、この目的達成のために、「伝道者養成の業に参与する」と「教会形成を担う」ことを働きのスローガンとして歩んでいる。そして、この度、今年度心新たに「私と教会が元気になるには」という主題を掲げて、私たち一人ひとりが主と主の教会に献身し、自立したバプテストの信徒へと成長することにより、教会が元気になることを目指して、全国壮年大会での講演会の開催や各地方連合壮年会での協力伝道活動の推進、情報交換及び相互協力活動の推進を目指して、次の4項目を踏まえて、具体的な活動を推進した。

- ① ＜伝道者養成と教会形成を担う働きの推進＞
 - ・神学校献金の用途を拡大し、連合立等神学校への支援に用いるための議案を、全国壮年会連合の総会で承認された。それに伴い、2025 年 2 月 7 日付けで連盟理事会との覚書を締結した。
 - ・＜毎月のニュースレターの発行＞ 「伝道者養成と教会形成を担う働き」のために、「私と教会が元気になるには」という主題により、8月から毎月半ばに「エマオ通信」というニュースレターを電子データとして発行した。データは藤寿氏による全国の諸教会・伝道所向けのメーリングリストや、HP 等で情報発信し、元気になることを目指した。
- ② ＜全国壮年会連合ニュースの発行＞伝道者養成と教会形成を担う働きのための情報の共有と「私と教会が元気になるには」という主題により、これまで通り、機関紙として、以下の内容で年に5回の全国の諸教会・伝道所に送付した。

〈壮年会連合ニュース 2024 年度発行計画と概略紙面構成〉

発行月	号	1 ページ	2 ページ	3 ページ	4 ページ
24/ 4/20	131	高良研一 (壮年会連合会長) 新役員の紹介	伝道者養成について③ (豊永義典元副会長)	西九州大会の案内 (野中滋生委員長) 神学生証 吉田ヒエラム (西南神学部)	連合定期総会公示 奨学金を希望される方へ 第1回役員会報告
24/ 6/20	132	野中滋生西九州大会 実行委員長アピール 大会参加登録	九州バプ神学生証(海蔵和香)	総会議案報告 献身の証古賀公一 (花野井教会牧師)	第1回代表者会議報告 今年度年内の予定

24/11/8	133	松見俊 (九バプセンター長) 神学生証 長尾基詩 (西南大神学部)	献身の証 塩山宗満 (茂原教会牧師)	「全国壮年大会を終 えて」 野中実行委員長 北関東大会案内 戸田実行委員長	総会議事報告 大会の感謝報告
24/12/20	134	才藤千津子(神学部 長) 11 月累計献金・会費 実績	献身の証 間村史子 (宇美教会牧師)	神学生の証 大野 学(釧路教会推薦) 全国壮年大会正誤 表	第2回役員会報告 代表者会議報告 今後の予定
25/ 2/20	135	朴 思郁(宣研所長) 1 月累計献金・会費 実績まとめ	献身の証 高木康俊 (蓮根教会牧師)	神学生証 遠藤守 (鮫教会) 奨学金委員会報告	臨時役員会報告 献金・会費納入願い 今後の予定

※別刷り:献金・会費実績折込 131 号(23 年度実績)、133 号(9 月累計)、135 号(1 月累計)

③ ジェンダーレスへの指向

諸教会・伝道所では、ジェンダー別の信徒活動をやめる動きが出てきている中で、伝道者養成と教会形成を担う働きに向けて、男性のみならず、誰でも参加できるものに向けての改革の推進を目指していきたい。東京地方壮年連合では、昨年度の定期総会で、男性のみ限らず、誰でも参加できる働きへ向けての基本方針案が承認されて、今年度では規約改正案が承認された。全国壮年会連合でも属性によらないメンバーによる働きにむけて進めていきたい。そのために、検討委員会の答申を受けて推進していきたい。

④ コロナが大分落ち着いてきたことにより、対面での活動がかなりできるようになってきたので、特に対面での意思の疎通を深め、経費(交通費)が掛からない形としてのオンラインによるものも併用して活動を進めてきた。

《具体的活動計画》

I. 伝道者養成の業への参与

1. 神学校献金の目標達成に向けての取組みと献身者の掘り起こし

西南学院大学神学部の神学生に対する奨学金及び連合立等神学校奨学金制度への資金支援のため、「神学校献金」の目標達成に向けて取り組んでいく。ここ数年コロナの影響もあって献金額が下がっており、西南学院大の神学生や東京バプ、九バプの専攻科生の減少という現実もあり、献身者の掘り起こしを踏まえて、今後の奨学金制度の充実や、多様化する伝道者養成のニーズに対応するべく、引き続きこの活動に力を入れて目標達成に向けて取り組みたい。

2. 神学校週間の取組み 毎年6月第4週から翌週の主日までの、2024 年 6 月 23 日～6 月 30 日、の取組みにより、神学校献金目標額達成に向けての献金のアピールと新しい献身者の掘り起こしのため。

① 「神学校週間によせて」のしおりの作成と送付。

これまで同様、「神学校週間によせて」のしおりを連盟常務理事室とともに作成し、連盟の「全国発送」にて発送する。そのために、全国壮年会連合は 2 面(裏)の記事作成を担当した。また、全国壮年会連合としては、別途、神学校週間資料として、このしおりに加えて、神学校週間のお願いの文書、振込用紙、神学校献金封筒等を各教会・伝道所に送付することにより、各教会・伝道所での神学校週間アピールのためのツールとしての効果を期待する。

〈紙面割り付け(構成)〉

	編集担当	記 事
1 面 (表)	連盟常務 理事室	巻頭言(常務理事) 西南学院大学神学生及び各地方連合立等神学校神学生の証し
2 面 (裏)	壮年会連 合	巻頭言(九バプ理事長)「神学校週間よせて(奨学金委員長)」 三神学校の紹介、神学生の紹介 神学校献金(神学生奨学金献金)についての説明

◇壮年会としての発行部数 10,000 部(壮年会員×2+α)

② 神学校献金推進活動の紹介のパンフレットの作成の準備

7 年前に作成したパンフレット「奨学金制度を支える働き」(2017 年 6 月)の改訂版を一昨年 6 月に作成し、全国の諸教会・伝道所に送付したが、今年度、一部の記述内容が変更となるので、今年度は更なる改定の作成準備にあたり、2025 年度に発行する準備をする。また、地方連合における神学校献金推進委員の具体的な働きをサポートし、全国壮年会連合ニュースの記事(寄稿)として神学生を紹介した。

③ 教会ごとの個別アピールの実施

神学校献金がこの近年大幅に減少してきている教会への働きかけは、協力のお願いの文書を 2 回送付したが、地方連合壮年会長および神学校献金推進委員によるサポートは十分にできなかった。

④ 神学校週間に合わせてホームページに掲載している西南学院大学神学部、及び東京・九州両バプテスト神学校を紹介するツールの活用についてのアピールが弱かった。

⑤ 今年度も福岡連合壮年会が中心となって、神学校週間の時期に、神学寮において対面と全国向けにオンラインの併用で開催したが、東京バプテスト神学校や九州バプテスト神学校との協力はできなかった。

3. 献身者の掘り起こしの推進

① 各教会・伝道所からの「献身者の掘り起こし」を積極的に推進していくために、神学校献金推進委員会等協議したが、中々難しい課題である。直接牧会に立つ献身者は勿論のこと、教会形成を担う働きに献身する信徒の掘り起こしを、全国壮年会連合ニュース、研修会、壮年大会等、様々な手段を使ってアピールしたが、青少年に対してのアピールについては、まだできていない。連合立等神学校での聖書のより深い理解のため、また、教会形成のために、積極的に学ぶ方々が起こされるようにアピールしたが更に祈っていきたい。

② 伝道者として第一線に立とうとしている献身者への励ましとなるような対応を進める。

- ・西南学院大学神学部、東京・九州両バプテスト神学校の神学生に対して、様々な手段を用いて推進することを目指したが、中々難しい課題である。
- ・神学校入学前研修会(連盟宣教室主催、3 月に実施)でアピールした。
- ・新任牧師/主事研修会(宣教研究所主催、2~3 月に実施)でアピールした。

II. 教会形成を担う働きの推進

全国の壮年同士の連帯と強化と活性化を踏まえて、

1. 全国規模のオンライン研修会の実施 10 月 19 日(土)に実施して、50 数名の参加があった。

「私と教会が元気になるには」のテーマで、伊藤光雄氏に講演をしていただいた。

2. 壮年会活動の活性化を図るためにも、各地方連合の壮年会が行うイベントに対して、財政的支援（各5万円程度）を想定したが、今年度は東京壮年連合が開催した研修会に3万円支援した。
3. 伝道隊の派遣（全国規模や地方連合内および地方連合間で）は実現できなかったもので、次年度に期待したい。

Ⅲ. 定期総会の開催

第68回連盟定期総会（2023/2/24）で「伝道者養成の基本理念 改定案」が承認されたことに基づき、昨年度の連盟の総会（2024/2/03）で承認された、「これからの伝道者養成アクションプラン、及び財務基本計画」に従って、全国壮年会連合の今年度の定期総会で、神学校献金の用途を拡大し、両神学校の運営のための支援に用いるという大きな決断をすることの承認を得る。合わせて、神学校献金（神学生奨学金献金）のかっこ内の、神学生奨学金献金を削除することの承認を得たので、関連する規則等を含めて、総会報告書・大会報告書の冊子の中に新しい規程を掲載した。

8月23日（金）、今年も昨年同様に、文書による総会とし、議案説明会を事前に6月29日（土）にオンラインにて開催し、質疑応答を行ったが、その後の質問・意見は無かった。結果報告（全議案が賛成多数で承認されたことを全国壮年大会の中で行った。

Ⅳ. 全国壮年大会の開催

1. 第59回（2024年度）全国壮年大会の開催

全国壮年会連合規約第5条(2)に則り開催した。

開催担当の西九州地方壮年会実行委員会はオンラインによる開催として、241名の参加があり、離島伝道（五島教会への支援を中心に）学んだ。

開催日時 2024年8月24日（土） 9:30～16:30（オンライン）

主 題 「わたしたちの心は燃えていたではないか」

主題説教 芦谷 隆時（長崎教会員）

聖 句 ルカによる福音書24章32節

二人は「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った」（新共同訳聖書）

大会の詳細は全国壮年会連合ニュース132号（6月20日発行予定）に掲載した。

2. 第60回（2025年度）全国壮年大会の開催

北関東地方連合壮年会の担当で実施する。2025年8月22－23日に浦和教会で開催する。オンライン併用とする。

テーマ これからのNO Border な教会の話をしよう！ ～教会が「教会」であり続けるために～

主題講演・講師 朴 思郁（宣教研究所所長 西川口教会牧師）

実行委員長 戸田浩司（西川口教会）

3. 以降の全国壮年大会の計画と準備

- ① 第61回の大会（2026年度）は、連盟の研修委員会の発案で、2026年度バプテスト大会（3日間）を福岡の西南学院大学で開催することになったので、初日（午後から）に壮年会の集まりを開催することになった。時間的に全国壮年会連合の総会をその中で行うことは難しい。

その翌年には 2020 年第 55 回大会(担当関西地方連合)がコロナ感染拡大のため中止となった関西地方連合壮年会に担当してもらうことになった。地方連合の活動が活性化し、充実した大会となるように役員会としても支援しながら準備を進めたい。

- ② 2027 年度以降、これからとの全国壮年大会と定期総会のあり方等については引き続き代表者会議や役員会等で協議していくことにしている。

V. 地方連合壮年会等代表者会議(略:代表者会議)の開催

全国壮年会連合と地方連合壮年会等の連携強化のために、昨年度から年2回開催しているが、交通費等関連で、1回は対面で開催した。

2024 年度 6 月 1 日(土) : 対面(原則) 10:30~16:00

定期総会議案の説明。神学校献金目標額の決定等について協議した。

11 月 9 日(土) : オンライン 10:00~14:50

豊永義典氏(前副会長)より、「伝道者養成に関する現状と課題」について発題いただき、質疑応答を行い、大変有意義なときとなった。

また、各地方連合の壮年会の報告を聞き、全国壮年会連合の今後の在り方についても意見交換した。また、結果として、副会長候補者選考委員会、ジェンダーレスについて検討委員会、HP 改革検討委員会を立ち上げた。

VI. 神学校献金推進委員会議、及び献身者の掘り起こしのための推進会議の開催

神学校献金の意義を強調しながら、目標達成に向け、また、献身者の掘り起こしのために、13 地方連合壮年会等の神学校献金推進担当者による会議を「神学校週間」前に開催して、合わせて、献身者の掘り起こしの推進のための協議を行った。

2024 年 6 月 15 日(土)(10:30~14:30) オンラインで開催した。

VII. 2024 年度全国壮年連合 協力体制

◇ 地方連合壮年会長・神学校献金推進委員 (敬称略)

地方連合	壮年会長(教会)	神学校献金推進委員(教会)
・北海道	西島 啓喜(帯広)	西島 啓喜(帯広)
・東 北	向井田 洋(仙台)	向井田 洋(仙台)
・北関東	戸田 浩司(西川口)	未定
・東 京	山田 誠一(大井)	星 文也(赤塚)
・神奈川	森 三樹(洋光台)	根塚 幸雄(横須賀長沢)
・西関東	松坂 克世(静岡)	松坂 克世(静岡)
・中 部	長谷 幸雄(各務原)	仙敷 正俊(瑞穂)
・関 西	稲川 仁(宝塚)	稲川 仁(宝塚)
・中四国	松田 裕二(道後)	石倉 央(広島)
・北九州	菊岡 義修(東八幡)	菊岡 義修(東八幡)
・福 岡	藤 寿(那珂川)代行	中富 勇夫(鳥飼)
・西九州	山崎 誠 (佐賀)	林 雄平(大川)
・南九州	森山 勇樹(天草中央)	森山 勇樹(天草中央)

◇ 役員会・委員会 (敬称略)

役員会・委員会	氏 名(担務・教会)	
役員会	高良 研一(会長・恵泉)	稲川 仁(副会長・宝塚)
	稲川 仁(事務局長・宝塚)	高井 透(会計・高崎)
	木村 均(書記・大井)	
	堤 秀幸(監査・福岡西部)	大城戸 一彦(監査・所沢)
奨学金委員会	北村 愼二(委員長・宝塚)	浦瀬 佑司(総務・札幌)
	田口 清吾(会計・平針)	鶴澤 寛(返還・鳥栖)
	古田 晴彦(渉外・宝塚)	
	武林 真智子(連盟理事・相浦光)	才藤 千津子(西南大/神学部長・平尾)
事務局員	飯野 實(宮原)	

議案4－② 2024年度全国壮年会連合一般会計決算報告書

単位:円

収 入 の 部	修正予算	決 算	備 考
1連合会費収入	2,500,000	2,314,500	1,159人(前年比6人減。予算人数比91人少)
2神学校献金繰入	1,500,000	1,500,000	2023年度神学校献金15,781,727円の10%以内
3利息・雑収入	0	2,780	
4その他	0	0	
収 入 計	4,000,000	3,817,280	
前年度繰越金	5,134,562	5,134,562	
合 計	9,134,562	8,951,842	

支 出 の 部	修正予算	決 算	備 考
1会議運営費	2,020,000	1,108,325	
①代表者会議費・旅費	600,000	385,865	対面とZoom会議で併用実施。日当を含む
②役員会旅費	310,000	246,113	対面とZoom会議で併用実施。日当を含む
③奨学金委員会旅費	600,000	163,332	対面とZoom会議で併用実施。日当を含む
④合同委員会旅費	480,000	271,640	対面とZoom会議で併用実施。日当を含む
⑤会議事務費	30,000	41,375	
2広報活動費	1,200,000	964,580	
①広報費	800,000	724,580	ニュース5回、神学校週間資料、大会資料等
②活動費	400,000	240,000	次年度大会補助、10/19研修講師料、東京地方連合補助
3事務局費	2,222,000	1,875,429	
①旅費交通費	400,000	188,217	西南面談交通費、神学校献金推進委員日当含む
②事務通信費	100,000	119,719	電話、郵便、コピー・印刷機使用料等
③事務費	100,000	41,699	コピー用紙、インク、ファイル等消耗品
④備品購入費	30,000	0	
⑤事務職員費	1,450,000	1,388,573	職員時給100円増額
⑥協力伝道献金	132,000	132,000	事務所管理費
⑦支払手数料	10,000	5,221	神学校献金・会費・奨学金返還振込料負担分
⑧雑費	0	0	
4特別委員会費	0	0	
5予備費	20,000	0	
6その他	0	0	
支 出 計	5,462,000	3,948,334	
当年度収支差額	△ 1,462,000	△ 131,054	
次年度繰越金	3,672,562	5,003,508	
内 訳			
(現金)	—	628,483	
(銀行残高)	—	4,375,025	
合 計	9,134,562	8,951,842	

《活動方針》

下記規程・運営規則・覚書に基づいた活動を諸教会、全国壮年会連合、日本バプテスト連盟理事会、西南学院大学神学部等との協働によって行う。

全国壮年会連合・連盟理事会との「覚書」	2008 年 8 月 2 日締結
「日本バプテスト連盟全国壮年会連合奨学金制度に関する規程」 (略称:全国壮年会奨学金規程)	2019 年 8 月 22 日改定
「日本バプテスト連盟全国壮年会連合奨学金委員会運営規則」	2000 年 9 月 16 日発効
「専ら伝道の業に従事する者に関する規程」	2019 年 8 月 22 日改定
神学校献金使途拡充による「覚書」(連盟と両神学校で締結)	2013 年 3 月 31 日締結
全国壮年会奨学金の給付及び貸与額等に関する細則	2016 年 8 月 20 日発効

1. 基本活動計画

- ①全国壮年会奨学金規程の所管事項第 6 条(1)～(3)による活動
 - ＊業務計画・予算案・業務報告書・決算書を全国壮年会連合役員会(以下、役員会)へ提案・提出した。
 - ＊奨学金の給貸与額・返還条件に関する基本方針を策定し、役員会へ提案した。
- ②同規程の所管事項第 6 条(4)～(5)による活動
 - ＊奨学生の募集、選考、給貸与額・返還条件を決定した。
 - ＊返還状況を確認し、遅滞者に督促した。
- ③同規程の所管事項第 3 条 2 号、5 条 2 項による活動
 - ＊この制度の運営に関する年度の業務報告等を、役員会を経由し連盟理事会に報告した。
 - ＊連盟理事会、西南学院大学神学部との協働を明確にして、活動を行った。
- ④貸与奨学金返還遅延者に関しては、連盟理事会、推薦教会と緊密に連携し対応した。
- ⑤「神学校献金の使途拡充の件」に伴う「連合立等神学校奨学金」に関する、連盟理事会からの受託業務を行った。
- ⑥全国壮年会連合奨学金制度に関する規程の修正を行った。
- ⑦西南学院神学部の学費改定ならびに神学寮の寮費改定に対応し、奨学金額の変更を行った。
- ⑧理事会に特別認定についての検討を依頼した。

2. 奨学金委員会構成メンバー及び委員会の開催・出席

- ①構成メンバーと職務(委員の任期 2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

氏 名	職 務	所 管 す る 事 項
北村 慎二	委員長	委員会の招集・議長、連盟・全国壮年会連合との調整 西南学院大学神学部との連絡調整に関すること
浦瀬 佑司	総 務	奨学金委員会で所管する規程に関すること 会議記録に関すること
古田 晴彦	渉 外	奨学生の募集、選考に関すること 奨学生(在学生)との連絡調整に関すること 財務(収支および資金管理)に関すること
田口 清吾	会 計	財務(収支および資金管理)に関すること 貸与額及び返還額の記録・管理に関すること
鶴澤 寛	返 還	対象者の管理に関すること 返還対象者及び推薦教会との連絡調整に関すること
武林 真智子	連盟担当理事	連盟理事会に関すること
才藤 千津子	神学部長	西南学院大学神学部に関すること

◎委員会陪席 全国壮年会連合 会長・監査・事務所職員

②奨学金委員会開催

第1回 2024年4月20日(土) 対面とZoom 併用

第2回 2024年12月14日(土) Zoom 会議

第3回 2025年1月25日(土) Zoom 会議

③全国壮年会連合役員会との合同役員会出席

第1回 2024年4月20日(土) 対面とZoom 併用

第2回 2025年3月1日(土) 対面とZoom 併用

④代表者等会議出席

第1回 2024年6月1日(土) 対面とZoom 併用

第2回 2024年11月9日(土) Zoom 会議

⑤全国壮年会連合定期総会議案説明会出席

2024年6月29日(土) Zoom 会議

⑥西南学院大学神学部神学生との面談等

2024年11月2日(土) 神学生との面談、神学部教授会との情報交換会

3. 奨学金実績

① 2024 年度奨学生

種別	人数	奨学生(推薦教会)
博士前期2年	2	原田 仰(平尾)(2024年度の給貸与はなし)、吉田睿濫(松本福音村)
専攻科	1	奥田 悟(東京北)
学部4年	1	長尾基詩(府中)
学部3年	1	張 恩榮(西福岡のぞみ)
選科2年	1	石原 誠(常盤台)
選科1年	1	大野 学(釧路)
合 計	7	

② 2024 年度奨学金

奨学金の種類	奨学金額
1種奨学金(貸与):校納金(授業料+施設費+教育充実費)対応	4,055,000 円
2種奨学金(給付):生活費支援	2,140,000 円
合 計	6,195,000 円

4. 貸与奨学金返還状況(在校生を含める)

(金額:円)

区 分	1 種		2 種		合 計
	人数	金 額	人数	金 額	
年度当初の奨学金貸与残高	29	59,840,700	18	5,107,500	64,948,200
年度内の奨学金返還総額	12	1,144,000	1	▲40,000	1,104,000
奨学金償却額(規程第15条)	0	0	0	0	0

今年度の奨学金貸与総額 (前期前払い分含む)	6	4,055,000	0	0	0
年度末の奨学金貸与残高	31	62,751,700	17	5,147,500	67,899,200

※2種の返還が▲40,000となっているのは、返還超過分があったため、払い戻したもの

5. 特記事項

- ① 「近況報告」により、卒業生の現況把握に努めた。
- ② 専ら伝道の業に従事する者としての特別認定について、理事会での検討状況をフォロー。
- ③ 対面とZoomを併用して会議を行った。

以上

議案4－④ 2024年度日本バプテスト連盟神学生奨学会計収支報告(2024.4.1～2025.3.31)

I. 神学校献金会計

<収入>

(単位:円)

	修正予算	決 算	備 考
神学校献金(実質基準)	20,000,000	16,386,596	
返還奨学金	1,200,000	1,104,000	
預金利息	1,000	7,415	
その他	0	0	
収入計	21,201,000	17,498,011	
前年度より繰越金	186,681,709	186,681,709	
収入 総計	207,882,709	204,179,720	

<支出>

	修正予算	決 算	備 考
奨学金制度運営費用	9,500,000	7,103,000	
東京バプテスト神学校奨学金支援費用	480,000	640,000	160,000円/名
九州バプテスト神学校奨学金支援費用	600,000	0	120,000円/名
支出計	10,580,000	7,743,000	
次年度へ繰越金	197,302,709	196,436,720	
支出総計	207,882,709	204,179,720	

当年度収支差(収入計－支出計) 10,621,000 9,755,011

II. 奨学金制度運営会計

<収入>

	修正予算	決 算	備 考
神学校献金会計より繰り入れ	9,500,000	7,103,000	
その他	0	0	
収入合計	9,500,000	7,103,000	

<支出>

	修正予算	決 算	備 考
神学生奨学金(当年度分)	8,000,000	5,664,000	
(内訳)1種奨学金	5,000,000	2,615,000	
(内訳)2種奨学金	3,000,000	2,140,000	
神学生奨学金(翌年度分)	0	848,000	
奨学金事務費(一般会計へ)	1,500,000	1,500,000	
その他	0	0	
支出合計	9,500,000	7,103,000	

<備考> 西南学院大学神学部神学生年度別給貸与奨学金

年 度	2024年度	2025年度	
貸与者(確定)人数	6名	4名	
前年度前払金	1,440,000	848,000	
当年度給貸与奨学金	4,755,000	6,010,000	
当該年度給貸与奨学金合計(前払い含む)	6,195,000	4,408,000	

全国壮年会連合奨学金委員会 委員長 北村 慎二

2025年4月11日

監査 大城戸 一彦
堤 秀幸

議案4-④-2

2024年度日本バプテスト連盟神学生奨学会会計決算報告書

2025年3月31日現在

貸借対照表 (単位:円)

資産の部	2023年度	2024年度	負債・資本の部	2023年度	2024年度
資産の部			負債の部		
郵貯	114,231,292	124,288,167			
普通預金	2,215,716	1,907,195	償却引当金	55,960,540	59,589,100
定期預金	70,234,701	70,241,358			
現金・預金計	186,681,709	196,436,720	負債合計	55,960,540	59,589,100
未収金	0	0	資本の部		
前払い金	1,440,000	848,000	基本金	150,000,000	150,000,000
流動資産計	188,121,709	197,284,720	基本金計	150,000,000	150,000,000
給貸与奨学金	64,948,200	67,899,200	前年度繰越差額	31,187,215	47,109,369
(1種奨学金)	59,840,700	62,751,700	当年度収支差額	15,922,154	8,485,451
(2種奨学金)	5,107,500	5,147,500	次年度繰越収支差額	47,109,369	55,594,820
投資その他の資産勘定計	64,948,200	67,899,200	資本合計	197,109,369	205,594,820
資産合計	253,069,909	265,183,920	負債・資本合計	253,069,909	265,183,920

奨学金残高の前期比推移

摘 要	1 種	2 種	合 計	備 考
期初残高(2024/4/1)	59,840,700	5,107,500	64,948,200	
前期前払分組入(+)	1,440,000	0	1,440,000	
2024年度貸与額(+)	2,615,000	0	2,615,000	
2024年度返済額(-)	1,144,000	▲ 40,000	1,104,000	
償却額(-)	0	0	0	
今期末残高(2025/3/31)	62,751,700	5,147,500	67,899,200	
2025年度償却見込額	10,404,800	450,000	10,854,800	

消費収支計算書 2024年4月1日～2025年3月31日

消費支出の部	2023年度	2024年度	消費収入の部	2023年度	2024年度
連合立等神学校奨学金	920,000	640,000	神学校献金	15,771,916	16,386,596
2種奨学金給付額	2,140,000	2,140,000	献金収入計	15,771,916	16,386,596
壮年会連合奨学金事務費	1,500,000	1,500,000			
その他					
その他支出計	4,560,000	4,280,000	その他収入計	0	0
特別支出					
貸与奨学金償却額	3,205,600	0	雑収入	1,214	7,415
償却引当金設定	55,960,540	3,628,560	特別利益		
特別支出計	59,166,140	3,628,560	その他の帰属収入計	1,214	7,415
			帰属収入計	15,773,130	16,394,011
			基本金取崩額	63,875,164	0
消費支出合計	63,726,140	7,908,560	消費収入合計	79,648,294	16,394,011

当年度収支差額	15,922,154	8,485,451
---------	------------	-----------

日本バプテスト連盟全国壮年会連合
会 長 高良 研一
会 計 高井 透
監 査 大城戸 一彦
堤 秀幸

2025年4月11日

議案4-⑤

2024 年度全国壮年会連合監査報告書

2025 年 4 月 11 日

2024 年度の監査結果を報告いたします。コロナが落ち着いてきている感がありますが、まだ注意をしていく状況にあります。それで書面監査を中心としましたが、最終日 1 日関係者が集い事務所で監査を実施しました。

監査期間 : 2025 年 4 月 1 日～11 日

監査対象 : (1) 2024 年度全国壮年会連合活動計画
(2) 2024 年度全国壮年会連合奨学金委員会活動計画
(3) 2024 年度全国壮年会連合一般会計決算報告
(4) 2024 年度日本バプテスト連盟神学生奨学金会計収支報告及び決算報告書

I. 業務監査

監査 大城戸一彦

1. 業務監査の目的

今回は以下の事項を確認しました。

- 1) 全国壮年会連合（以下、連合という）の活動が連合の各規約に照らしてその目的に従い、かつ効果的に行われているか。
- 2) 機関決定のプロセスが分かるように議事録に記録されているか？そして、議事録は単に決定事項のみならず、その背景や会議内容がきちんと記載されているか？

2. 業務監査の方法

2024・2025 年度計画・報告と各会議に出席したうえで、記録等をもとに全国壮年会連合（以下壮年会連合）規程を遵守されたうえで各事業が進められたことを確認しつつ、それに至った取り組みのプロセスに重きを置いて行いました。単純に結果の評価だけではなく、今後の壮年会連合を見据えた意見を述べる部分もありますが、その部分はご参考にしてください。

3. 業務監査結果

1. 壮年会役員構成について

壮年会連合規約第 7 条（役員）において、会長以下 7 名の役員の構成で事業を遂行する、と規定されているが、現状は、7 つの役割に対して 6 名（1 名は 2 職を兼務）となっている。このことは、2024・2025 年度年度活動計画案時点で総会に承認されているとはいえ、特に、事業遂行のキーマンである事務局長が副会長を兼任する状況を踏まえると、規約 7 条を遵守しているとは言い難い。

期首にこのことを懸念し、会長専権事項として委任する職務を明確にして副会長代行者を求めて広く壮年に呼び掛けてはいかがとアドバイスをした。2024 年度第 2 回地方連合壮年会等代表者会議（以下代表者会議）にて候補者選考委員会が立てられた。その結果、副会長候補者が推薦され、今総会に提案されることとなった。各位のご努力に感謝する。

2. 伝道者養成の取り組みについて

第 2 回代表者会議にて、「伝道者養成に関する現状と課題」と題して、連盟「伝道者養成に関する委員会」委員の豊永義典氏を講師に迎えて発題をしていただき、課題を共有する場を持てたことは非常に良かった。出席者からは現状の課題として持っていることを率直に問い、分かち合うことができたと評価する。

3. ジェンダーレスの取り組みについて

課題としてとらえる契機となった東京地方壮年連合の取り組みを参考にして方向を決めることとして、役員会等で話し合ったが、具体的な方向付けに至らなかったと理解している。この課題は、各教会・伝道所からの必要性を把握したうえでなければ施策が見いだせないと思う。全国の教会・伝道所の中では、実際に取り組まれているところもあることから、「ジェンダーレスについての課題を検討する委員会」が、視野を広げて検討して下さることを期待する。

4. 教会形成の課題「私と教会が元気になるためには」について

全国の教会・伝道所に一緒に取り組むことをお願いする事項なので、年間を通しての「啓発、活動」が重要となる。10 月 19 日（土）に伊藤光雄氏を講師にして全国オンライン研修会を開いたことは評価できる。そのうえで、研修後に「運動」となって「うねり」を起こすには、出席者に Zoom 記録を配信するだけでは十分ではない。広報誌の活用などいろいろな壮年層へのアプローチを工夫する必要がある。このことの事象としては、壮年会費納入教会・伝道所の減少（2019 年度対 2024 年度マイナス 24 教会・伝道所）があり、教会・伝道所での壮年会としての活動実態がなくなっているのも一因と想像できる（事務局調べ）。ジェンダーレスの取り組み課題との関連もあると思う。

5. 広報について

2024 年 8 月 15 日号に第 1 号「エマオ通信」が発行され、従来からの「壮年会連合ニュース」と合わせて、全国の壮年に行き渡るような情報インフラが整ってきた。掲載記事も神学校献金、献身者に関するだけでなく、教会支援や啓発、キリスト者としての社会活動への献身など、共有することの幅が広がってきていることは、評価できる。さらに壮年にとって身近な読み物とじていただくためには、取材記事なども工夫されたい。

このことの補完策として、神学校献金への納入アピールのために今年度 2 回、会長名による文書を各教会・伝道所に送付していただき、全国で 78%の納入率（12 月時点、事務局調べ）となった。今後もきめの細かい対応が必要である。

6. 旅費交通費支給に関する内部規程について

現行の「全国壮年会連合・旅費交通費に関する内部規定（覚書）」について、今後の継続性を担保するために、制定の手順を踏んで体裁を整え、規約として位置付けすることが必要と判断する。

- ① 「内部規程」と謳っている以上、規程として体裁を整えて位置づけを明確にする必要がある。既存の「・・・事務職員規程」と同様の扱いが望ましい。なお、「覚書」とは、当事者間の契約行為として結ぶ「契約書」であり、この「内部規程」に冠することにはふさわしくない。
- ② この内部規程の上位の規則条項は、現行の各規程を見る限り「・・・規約 10 条」の、「運営に要する経費・・・支弁する」が該当するものと解釈する。なお、「細則第 2 条（細則にない事項）」が該当するとの解釈もできるが、「一時的な措置」という範疇にとどめておくべきものであり、そこで決議されたものでも継続的な運用が必要なものは規程として施行すべきものと解釈する。

以 上

Ⅱ. 会計監査

監査 堤 秀幸

1. 会計監査の目的

以下の各項目により、経理状況の現状を把握し、より適正かつ正確な経理に寄与する。

1) 一般会計

- 収入、支出とも適正、正確に経理されているか。
- 帳票類は閲覧に供することができるように整理されているか。
- 年間収支の状況を把握し、適正な運営に努めているか。

2) 奨学金会計

- 収入、支出とも適正、正確に経理されているか。
- 個人別台帳には貸与・給付の実施、返済状況、償却が正確に記録されているか。
- 奨学生の近況報告等によって、奨学生のニーズや返済状況の把握がなされているか。
- 個人別台帳、残高管理表による残高把握は正確になされているか。
- 年間収支、基本金を含む自己資本の状況を把握し、奨学金制度の適格な運営に努めているか。

2. 会計監査の方法

1) 一般会計

- 現金出納帳残高及び、金融機関通帳残高または残高証明書記載の残高と会計管理システムに記帳された対応する残高との照合。
- 会計管理システムの収入・支出各項目の月次別及び年度集計の残高と別途、項目ごとに集計した残高との照合。
- 2024 年度一般会計決算書の各項目残高の上記帳票の残高との照合。

2) 奨学金会計

- 金融機関通帳残高または残高証明書記載の残高と会計管理システムに記帳された対応する残高の照合。
- 会計管理システムの収入・支出各項目の月次別及び年度集計の残高と別途、項目ごとに集計した残高との照合。
- 奨学生の個人別台帳、残高管理表に記載された貸与、給付、返済、償却及び残高と会計管理システムの対応項目との照合。
- 2024 年度奨学会計決算報告書及び同年度奨学会計収支報告の各項目と上記帳票の残高との照合。

3. 会計監査の結果

1) 一般会計

全体としては、適正、正確に経理されているものと認めます。

- ① 2024 年度全国壮年会連合一般会計決算報告の次年度繰越金内訳記載の預金残高と銀行残高証明書との一致を確認した。
- ② 2024 年度の奨学会計からの繰入は、前年度 2023 年度神学生奨学金献金の 10%以内で行われていることを確認した。(規約 11 条第 1 項)
- ③ 会計担当の役割が見えない状況です。事務局と会計担当の業務分掌の明確化を求めます。

2) 奨学会計

全体としては、適正、正確に経理されているものと認めます。

- ① 2024 年度日本バプテスト連盟神学生奨学会計決算報告書の 2025 年 3 月 31 日現在貸借対照表の資産の部にある郵便振替、普通預金及び定期預金に記載された金額は、金融機関発行の残高証明書の金額、関係帳票の金額と一致しており適正、正確なものと認めます。
- ② 昨年 2 月の連盟総会において、連合立等神学校への支援金として、10 年間にわたり毎年 350 万円が奨学会計より支出されることが決定しました。支援金のそれぞれの神学校への振り分けの金額は「伝道者養成に関する委員会」にて決定されます。壮年会連合は連盟との手続きについて確認しておく必要があります。
- ③ 同決算報告書の 2025 年 3 月 31 日現在の貸借対照表記載の貸与奨学金残高は「奨学金個人別台帳」の集計結果の金額と一致しており適正、正確なものと認めます。
- ④ 奨学生から提出される返済計画・近況報告は、貸与奨学金の運営管理にとって、重要な情報です。さらに貸与者の異動について、連盟と奨学金委員会双方で情報の確認が必要と思われます。

以上

監査 大城戸 一彦
堤 秀幸

2026 年度神学校献金目標額、2500 万円を提案致します。

一昨年、2023 年度、コロナが5 類になったとはいえ、全国の諸教会・伝道所より、目標額 2500 万円対して、総額 1638 万円の献金（対前年比 61 万円アップ）が献げられたことに心より感謝致します。

私達は下段の表のごとく、2021 年度まで 3,000 万円を献金目標額としてきましたが、西南学院大学神学部（以下、神学部とする）の神学コースの学生の大きな減少があり、必要な奨学金額も低下してきたことから、2020 年度からはコロナの影響もあり、献金実績は更に低下し、2,000 万円を下回る事態が続いてきました。この状況を受けて代表者会議や役員会などで議論を重ね、2022 年度からは目標額を下げ、2,500 万円としました。西南大の神学生への給付・貸与奨学金額は減少してきていますが、安定的に制度を運営するために、献金を推進する運動体として夢を持ちつつ、しかるべき目標を維持し、神学生や連盟や教会・伝道所を取り巻く環境が大きく様変わりしている中で、この奨学金制度に求められるニーズも変化しつつありますが、両神学校への財政的支援を踏まえて目標額達成に向かって推進していきたいと考えております。そして、西南学院大学神学部への入学者は、2020 年度より 2 年続けてゼロの後、22 年度 2 名、23 年度 3 名、24 年度は 3 名となり、今年度は 1 名の入学者と減少しました。私たち壮年は、各教会・伝道所での「献身者を生み出す」働きに献身し、献身者の掘り起こしの為に祈り、具体的な取組みを進めてまいります。

そして、今年度より、神学校献金より、東京バプテスト神学校と九州バプテスト神学校への運営資金のために毎年総額 350 万円を支援してまいりますので、2026 年度の目標額についても、近年の神学校献金の実績を踏まえて、両神学校への支援金を加えたところで、2500 万円としての目標に対して、各教会・伝道所におかれましては、これまで以上のアップを期待して、是非とも達成に向けて励んでいきたいと願っております。

＜奨学金制度の沿革＞

年度	
2001	連盟からの委託により全国壮年会連合が同制度の運営を開始した。 但し、連盟制度にあった 2 種奨学金については資金の不足により制度に組み込めなかった。
2007	2 種奨学金を復活した。1 人年額 12 万円とした。
2009	2 種奨学金を、1 人年間 54 万円（配偶者無：30 万円）に増額した。
2013	神学生奨学金会計から、連合立等神学校（東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校）の奨学金制度に対し、神学生 1 人年間 12 万円（最大 2 年間）に相当する資金を支弁することとなった。＊注
2017	2 種奨学金を貸与から給付に変更。配偶者手当、子ども手当及び図書費援助費を新設した。

＊注：神学生の校納金の 8 割相当を支弁。（現時点では東バブは 16 万円、九バブは 12 万円。）

＜直近の献金額、奨学金支給・貸与額、支弁額、及び学生数の状況＞（万円）

年 度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
献 金 目 標 額	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	2,500	2,500	2,500
献 金 実 績 額	2,235	2,299	1,986	1,944	1,603	1,588	1,555	1,577	1,638
西南給付/貸与額	2,704	1,795	1,733	1,514	925	769	523	566	710
連合立等神学校支弁額	84	132	76	60	72	44	84	92	64
神学生数	西 南	21 名	15 名	14 名	11 名	8 名	7 名	6 名	5 名
	連合立等	7 名	9 名	5 名	4 名	5 名	5 名	6 名	4 名

議案 6

全国壮年会連合旅費交通費に関する規程の制定について

これまで、全国壮年会連合の活動における、関係者の旅費交通費については、便宜上、連盟の旅費規程を参考にして、掛かった交通費の実費と、必要に応じて宿泊費を支給し、食事代や手当は支給しておりませんでした。

その後、コロナの影響で、対面の会議ではなくオンライン開催ということで、会議等の支出が減少し、全国壮年会連合の決算において 2023 年度末の時点で、次年度への繰越金が 500 万円を超える状況になり、予算において少しばかりのゆとりが出てきました。

そこで、前期役員会において、連盟の理事会で策定し実施している旅費規程に沿って、新たに日当の支給を含めた（食事代を除く）旅費交通費に関して、全国壮年会連合として、旅費交通費に関しての内部規程（覚書）を作り、昨年の 2024 年度より実施してきました。

しかしながら、2024 年度の役員会において、旅費交通費に関して、「内部規程（覚書）」とするのはふさわしくないので、総会にての承認の規約として位置付けるべきであるということになりましたので、この度、下記のごとく、全国壮年会連合旅費交通費に関する規程につきましては、総会での承認を求めることになりました。合わせて、2024 年度からの日当支給に関してご理解のほどよろしくお願いいたします。

全国壮年会連合 旅費交通費に関する規程

第1条（目的）

日本バプテスト連盟全国壮年会連合（以下「連合」という）の役員、委員、奉仕者等が、連合の役員会、委員会、集会等へ出席する場合（以下「会議等」という）、または業務上の出張等をする場合（以下「出張等」という）、当該者に対して支給する旅費・宿泊費・食費・日当（以下「旅費交通費等」という）に関し、諸般の基準を定め、予算の適正な支出をはかることを目的とする。

第2条（支給対象者）

支給対象者は別表①の通りとする。代理出席者にも支給する。陪席者について支給するかどうかは全国壮年会連合役員会（以下「役員会」という）の判断とする。なお、他の団体等から旅費交通費等の支給を受ける者については、支給対象者とししない。

第3条（旅費）

旅費は原則として、最も経済的で通常の経路による実費計算とする。

第4条（宿泊費）

会議等のために宿泊が必要な場合は、別表②の基準に従って支給する。

第5条（食費）

会議等のために食事が必要な場合は、別表③の基準に従って支給する。

第6条（日当）

会議等に出席した者には、別表④の基準に従って支給する。オンラインによる参加者も同様とする。

第7条（出張等）

出張等における旅費交通費の支給については事前に役員会の承認を得ることとする。

第8条（その他）

本件の取り扱いの実務において判断に迷うことが生じた場合は、役員会の決裁に委ねることとする。

第9条（その他）

この規程を改廃する場合は、全国壮年会連合総会において過半数の賛成議決によらなければならない。

付則

この規程は、 年 月 日より施行する。

全国壮年会連合 旅費交通費に関する規程（別表）

別表①

連盟事務所等での会議

対 象 者	旅 費	食 費	宿泊費
役 員	実 費	下記 食事代 の表を適用	下記 宿泊費 の表を適用
奨 学 金 委 員	実 費		
地 方 連 合 壮 年 会 長	実 費		
神学校献金推進委員	実 費		
ア ル バ イ ト 等	実 費		

※奨学金委員等による西南学院での神学生面談を含む。

定期総会（全国壮年大会参加のみについては対象としない）

対 象 者	旅 費	食 費	宿泊費
総 会 議 長	実 費	下記 食事代 の表を適用	下記 宿泊費 の表を適用
役 員	実 費		
奨 学 金 委 員	実 費		
地 方 連 合 壮 年 会 長	実 費		
神学校献金推進委員	実 費		
ア ル バ イ ト 等	実 費		

別表②

宿泊（前泊を含む）費用

宿 泊 費
¥8,000 までは全額支払
¥8,000 円を超す場合：¥8,000 を支払
朝食込みの場合：¥10,000 を支払
知人宅を利用する場合：¥3,000 を支払
連盟事務所を利用する場合：無料

別表③

食事代（2026年度より実施）

		朝 食	昼 食	夕 食
移 動 中	前泊の場合	自己負担	自己負担	¥2,000
	会議当日(前泊者)	¥1,000	—	—
連盟事務所等での会議等	午前中より会議	自己負担	¥1,000	—
	午後より会議	自己負担	自己負担	—
	要宿泊の場合	—	—	¥2,000
	会議最終日	¥1,000	¥1,000	自己負担

※朝食込み前泊の場合は朝食代は支払わない

別表④

日当（オンライン会議を含む）（2024年度より実施）

1 日 当 た り	¥2,000
-----------	--------

旅費交通費計算基準等

(連盟理事会で承認している旅費交通費を参考に作成)

旅費交通費計算基準

交通手段	片道距離		費 用
JR 在来線 私鉄各線	50Km 以下	普通料金	実費支払
	50～100Km	指定席利用可	実費支払
	100Km 以上	特急利用可	実費支払
新 幹 線	100Km 以上	普通指定席	実費支払
航 空 機	300Km 以上	格安航空券購入を基本とする	実費支払
車(自家用車)	200km 以下	ガソリン代・高速料金を支払	実費支払
	200Km 以上	自家用車使用を認めない	
船 船	日帰り	普通料金	実費支払
	洋上泊	指定席	実費支払

南浦和から各地への距離

始 発 駅	目 的 地	JR 距離 Km
南 浦 和	札 幌	1, 140
	青 森	700
	盛 岡	510
	仙 台	330
	新 潟	310
	金 沢	430
	水 戸	140
	小 田 原	110
	旧 天 城 山 荘	180
	名 古 屋	390
	新 大 阪	580
	岡 山	760
	広 島	920
	松 山	970
	博 多 (福 岡)	1, 200

議案 7 2025-2026 年度全国壮年会連合活動計画〈案〉

《主題》 「私と教会が元気になるには」

コロナによる影響が小さくなって、これまでできなかった事柄を少しずつ可能になってきた。25 年度・26 年度は引き続き、主にある仲間との交流、交わり、祈りや学び、そして、協力伝道の実践を具体的に推進して、私が元気になり、教会も元気になることができるように祈る。その為に、まずは、自分の周りで、教会で、近隣の教会と、地方連合壮年会で、また、全国レベルでの種々の働きで実践出来たらと期待している。その為の対応を色々と積み重ねていきたいと考えている。

《聖句》「二人は、『道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心

は燃えていたではな

いか』と語り合った。」ルカ24章32節(新共同訳)

《活動方針》

全国壮年会連合規約第4条の「各教会の壮年会等が相互の啓発をはかり、交流親睦を深めると共に(協力)伝道活動を積極的に協力し合うことを目的とする。」に沿って、24 年度に引き続き、「私と教会が元気になるには」という主題と聖句を掲げて、2025～2026 年度歩んで行きたいと考えている。そして、全国壮年会連合が掲げている、「伝道者養成と教会形成」を担う働きのヴィジョンのもとに、私たち一人ひとりが主と主の教会に献身し、自立したバプテストの信徒へと成長することにより、全国壮年大会での講演会の開催や各地方連合壮年会での協力伝道活動の推進、情報交換及び相互協力の推進を行う。そして、次の5つの課題を踏まえて、具体的な活動計画を推進する。

《具体的な五つの働き》

総会、大会、種々の会議での機会を通しての交わりや「連合ニュース」や「エマオ通信」や「HP」等による発信を通じ、また、各地方連合壮年会等との協力により、以下の具体的な活動を推進する。

- 毎月のニュースレターの発行> 「伝道者養成と教会形成を担う働き」のために、「私と教会が元気になるには」という主題により、昨年(24 年度)8 月より、毎月ニュースレター(エマオ通信)を発行し、巻頭言と証等を E メールや HP 等の SNS を通じて情報発信し、壮年会員の減少を食い止め、全国壮年会連合の会費のアップに繋げたい。
- 全国壮年会連合ニュースの発行> 伝道者養成と教会形成を担う働きのための情報の共有と「私と教会が元気になるには」という主題により、巻頭言と証を通じて情報提供していく。
- HP 検討委員会の検討を踏まえて HP の有効な活用を工夫する。

1. 神学校献金の推進活動

2025 年度より、神学校献金から東京バプテスト神学校と九州バプテスト神学校への運営費へ、年総額 350 万円が支援されることを踏まえながら、諸教会・伝道所よりの献金を以下の如くアピールする。

- 神学校献金の目標達成(25 年度 2500 万円)を目指しての取組み。

教会全体の取組みとして、西南学院大学神学部の新入生に対する奨学金及び連合立等神学校奨学金制への資金支援のため、連盟と協力して「神学校献金」の目標達成に向けて取り組んでいく。ここ数年コロナの影響があつて、教会自体が厳しくなっている中で、神学校献金額が下っており、西南学院大の新入生の減少という現実もあるが、今後の奨学金制度の更なる充実や、多様化する社会の中で、献身者の掘り起こしのため、そして、東京バプテスト神学校と九州バプテスト神学校の運営資金としての支援のためにも用いられる神学校献金の目標達成に向けて取り組みたい。

- 神学校週間の取組み 毎年6月第4主日から翌主日まで、(2025年6月22日～6月29日、2026年6月28日～7月5日)の取組みにより、神学校献金目標額達成の為の働きと新しい献身者の掘り起しのための取組みを行う。
- 福岡連合壮年会が中心となって、神学校週間の時期に、神学寮において対面とオンラインの併用で全国の諸教会・伝道所へ向けて、開催していただく。
- 「神学校週間によせて」のしおりの作成と送付。2025年度より、A4サイズ4頁にて作成するが、これまで同様、連盟常務理事室とともに作成し、連盟の「全国発送」にて発送する。そのために、全国壮年会連合はA4の2頁の記事作成を担当する。また、全国壮年会連合としては、別途、神学校週間資料として、このしおりに加えて、神学校週間のリーフレット(計10,000部)、神学校週間のお願いの文書、振込用紙、神学校献金封筒等を各教会・伝道所に送付することにより、各教会・伝道所での神学校週間アピールのためのツールとしての効果を期待する。

〈紙面割り付け(構成)〉

	編集担当	記 事
1 頁 4 頁	連盟常務理事室	巻頭言(常務理事) 西南学院大学神学生及び各地方連合立等神学校神学生の証し
2 頁 3 頁	全国壮年会連合	巻頭言(神学校関係者)、神学校週間よせて(全国壮年会連合から) 三神学校の紹介、神学生の紹介(氏名等) 神学校献金(神学生奨学金献金)について

◇全国壮年会連合としての発行部数 毎年 10,000 部(壮年会員×2+α)

- 神学校週間等での神学校献金推進活動の為の改定版のリーフレットの作成と配布

8年前に作成したリーフレット「奨学金制度を支える働き」(2017年6月)の改訂版を23年度6月に作成し、全国の諸教会・伝道所に送付したが、今年度、新たに、内容を若干見直し、発行する。

各地方連合における神学校献金推進委員の具体的な働きをサポートし、全国壮年会連合ニュースの記事として神学生と神学校献金推進委員の働きを紹介する。

- パワーポイントで作成している、「神学校献金のために」の資料をニュース等で西南学院大学神学部、及び東京・九州バプテスト神学校を紹介し、各教会・伝道所でのアピールのために利用してもらう。HPにも掲載する。

〈全国壮年会連合ニュース 2025 年度発行計画と概略紙面構成〉

発行月	号	1ページ	2 ページ	3 ページ	4 ページ
25/ 4/20	136	巻頭言(高良会長) 神学生の証 ()	北関東大会の案内 (戸田委員長)	第3回役員会・ 合同会報告	全国壮年会連合定期総会公示 役員選挙の公示 奨学金を希望される方へ
25/ 6/20	137	戸田北関東大会実行委 員長アピール 神学生の証 ()	牧師による召命の証	定期総会議案	第1回役員会報告 第1回奨学金委員会・合同会報告 第1回代表者会議報告
25/10/20	138	巻頭言() 神学生の証 ()	牧師による召命の証	「全国壮年大 会を終えて」 戸田浩司実行 委員長	総会議事結果報告 次期大会案内 総会への協力感謝
25/12/20	139	巻頭言() 11 月累計献金・会費実 績	牧師による召命の証	神学生の証 () 第2 回役員会 報告	第2 回代表者会議報告 第2 回奨学金委員会報告

26/ 2/20	140	巻頭言() 1 月累計献金・会費実績	牧師による召命の証	神学生の証 () その他	第3回奨学金委員会報告 第3回役員会報告
----------	-----	------------------------	-----------	---------------------	-------------------------

※別刷りの献金・会費実績を折込む。 4月発行で136号(2024年度実績)、10月発行で138号(2025年度9月累計)

2. 奨学金制度の運営

全国壮年会連合奨学金委員会による運営(委員の任期は2025年度)

委員長 北村愼二委員長(宝塚教会)

委員 浦瀬佑司(札幌教会)、鶴澤寛(鳥栖教会)、古田晴彦(宝塚教会)、向井田洋(仙台教会)、
日原広志(神学部長)、杉山いずみ(連盟担当理事、徳島教会牧師)

事務局(飯野實)の働き。

2001年度より連盟理事会より委託された「奨学金制度」の運営のために、奨学金委員会により、年に3回の定例会議を開催して、3神学校の学生への奨学金の支給(貸与)と返還業務にあたっている。

3. 献身者の掘り起こしの推進

直接献身者として神学校で学ぶ者が起こされるように。また、兼業牧師も起こされるように。そして、献身した信徒として教会での働きを担う者が起こされるように。各教会・伝道所からの「献身者の掘り起こし」を積極的に推進していくために、役員会、合同会、代表者会議、神学校献金推進委員会議等でも協議し祈り、推進していく。これは直接牧会に立つ献身者は勿論のこと、教会形成を担う働きに献身する信徒の掘り起こしを目指す。全国壮年会連合ニュース、研修会、全国壮年大会等、様々な手段を使って、献身することの意義・重要性をアピールしていく。そして、連合立等神学校での聖書のより深い理解のため、また、バプテスト教会としての教会形成のために、積極的に学ぶ方々が起こされるように祈り、推進していく。伝道者として第一線に立とうとしている献身者への励ましとなるように、連合ニュース等により、西南学院大学神学部、東京・九州両バプテスト神学校で学んでいる学生の証や牧師の献身の証により、アピールしていく。

4. バプテスト(信徒)としての学び

○全国壮年大会での主題講演からの学び

2025年度のテーマは、

これからのNo Border な話をしよう！ ～ 教会が「教会」であり続けるために。

主題講演：講師 朴 思郁(宣教研究所所長 西川口教会牧師)

○年5回の連合ニュースや、毎月半ば発行のメールによるエマオ通信の記事からの学び

○各地方連合における各地方連合における、西南学院大学神学部の出張公開講演の推進。

原則、同一年度に2回可能で、必要経費は西南学院大学の負担となっている。

2025年度は、黄 南徳教授「神の宣教(Missio Dei)における教会の時代的課題と役割」

才藤 千津子教授「教会とハラスメント～共に生きる教会形成のために」

のどちらかにお願いすることになる。

○全国規模のオンライン研修会をシリーズで宣教研究所との協力を念頭におき開催することを計画する。

○各神学校での積極的な受講(集中講座を含む)による学びを奨励し推進することにより、より良い教会形成のために活かしていただく。

5. 教会形成のための協力伝道(の推進)

○必要とされている教会・伝道所への、協力伝道派遣チーム(伝道隊)の取組み

○各地方連合(壮年会)での協力伝道の働きをアピールし、その働きを推進する。

《具体的な活動計画》

1. 定期総会の開催

第 68 回連盟定期総会(2023/2/24)で「伝道者養成の基本理念 改定案」が承認されたことに基づき、昨年度の連盟の総会(2024/2/03)で承認された、「これからの伝道者養成アクションプラン、及び財務基本計画」を元に、

●2026 年度の全国壮年大会をバプテスト大会にに合わせて開催 ●会費納入の増加へ向けての取組み

●協力伝道派遣チーム計画等について、●属性(性別、や既婚・未婚、年齢)によらないメンバーによる働きを目指しての組織改革への取組みを目指していく。

8 月 21 日(木)、今年度も文書による総会とし、それにあたって、議案説明会を事前に 7 月 5 日(土)にオンラインにて開催する。総会についての結果報告を全国壮年大会の中で行う。

2. 全国壮年大会の開催

○第 60 回(2025 年度)全国壮年大会の開催 実行委員長 戸田 浩司(西川口教会)

開催担当の北関東連合壮年会実行委員会は対面、及びオンラインによるハイブリット開催を進めている。

開催日時 2025 年 8 月 22 日(金) ～23 日(土) 開催場所 浦和教会(ハイブリット開催)

主 題 「これからの No Border な教会の話をしよう！～ 教会が「教会」であり続けるために ～」

主題講演・講師 朴 思郁 日本バプテスト連盟宣教研究所所長(西川口教会牧師)

大会の詳細は全国壮年会連合ニュース 137 号(6 月 20 日発行予定)に掲載する。

○第 61 回(2026 年度)全国壮年大会の開催

関西地方連合壮年大会の担当で、西南学院で開催される「バプテスト大会」の初日に開催する。

○以降の全国壮年大会の計画と準備

第 62 回の大会(2027 年度)は、 ○○連合。

それ以降の全国壮年大会の開催場所や担当実行委員会や、定期総会のあり方等については、役員会、合同会、代表者会議等で協議していく。

○結成 50 周年記念大会(2028 年度)の開催準備 全体で実行委員会を設置して行う。

3. 地方連合壮年会等代表者会議(略:代表者会議)の開催

地方連合壮年会等の連携強化のために、一昨年度から年2回開催しているが、交通費等の関連で、1回は、オンラインで開催する。

2025 年度 6 月 14 日(土): 対面(原則) 連盟事務所 10:30～16:00、 11 月 8 日(土): オンライン

4. 神学校献金推進委員会議、及び献身者の掘り起こしのための推進会議の開催

神学校献金の意義を強調しながら、目標達成に向け、また、献身者の掘り起こしのために、13 地方連合壮年会等の神学校献金推進担当者による会議を「神学校週間」前の 6 月半ばに開催し、合わせて、献身者の掘り起こしの推進のための協議を行いたい。

2025 年7月12日(土)(10:00～) オンライン開催

5. 連盟理事会との協議

連盟理事会において「伝道者養成に関する委員会」(24・25 年度)へ、全国壮年会代表として、豊永義典氏に依頼しているので、その状況を共有し、必要に応じて、別途、連盟理事会との協議を行う。

《その他》

○全国壮年会連合結成 50 年を迎えようとしている中で、その後の組織やあり方、特に、性別や既婚未婚等の属性によらない誰でも参加できる働きや、全国壮年大会の開催場所や運営の仕方等について協議していく。

特に、諸教会・伝道所や地方連合においては、ジェンダー別の信徒活動をやめる動きが出てきている中で、伝道者養成と教会形成を担う働きに向けて、属性にとらわれないで、誰でも参加できるものに向けての改革の推進を目指して、検討委員会を昨年度立ち上げた。そのために、代表者会議でも議論し、25 年度の総会での「協議」としたい。

○対面とオンラインの併用による会議を開催する。対面での意思の疎通を深める。ただ、全国壮年会連合の一般会計の収支を改善するために、経費(交通費)の掛からない形としてのオンラインによるものも併用する。

○神学校入学前研修会(連盟宣教室主催、3 月に実施)でアピールする。新任牧師/主事研修会(宣教研究所主催、2 月 25～28 日)でアピールする。

《備考》 2025 年度全国壮年連合 協力体制

◇ 地方連合壮年会長・神学校献金推進委員 (敬称略)

地方連合	壮年会長(所属教会)	神学校献金推進委員(教会)
・北海道	西島 啓喜(帯広)	西島 啓喜(帯広)
・東 北	向井田 洋(仙台)	中山 晴久(仙台)
・北関東	戸田 浩司(西川口)	戸田 浩司(西川口)
・東京	山田 誠一(大井)	星 文也(赤塚)
・神奈川	森 三樹(洋光台)	根塚 幸雄(横須賀長沢)
・西関東	齊藤 弘司(松本蟻ヶ崎)	齊藤 弘司(松本蟻ヶ崎)
・中 部	長谷 幸雄(各務原)	鎌井 泰(名古屋)
・関 西	稲川 仁(宝塚)	稲川 仁(宝塚)
・中四国	松田 裕二(道後)	石倉 央(広島)
・北九州	菊岡 義修(東八幡)	吉津 弘(芦屋)
・福 岡	堤 秀幸(福岡西部)	川内 誠(西南学院)
・西九州	野中 滋生 (相浦光)(窓口)	山崎 誠(佐賀)(窓口)
・南九州	森山 勇樹(天草中央)	森山 勇樹(天草中央)

◇ 役員会・委員会 (敬称略)

役員会・委員会	氏 名(担務・所属教会)	
役員会	高良 研一(会長・恵泉)	星 文也(副会長・赤塚)(総会承認による)
	稲川 仁(事務局長・宝塚)	高井 透(会計・高崎)
	木村 均(書記・大井)	
	堤 秀幸(監査・福岡西部)	大城戸 一彦(監査・所沢)
奨学金委員会	北村 慎二(委員長・会計・宝塚)	浦瀬 佑司(総務・札幌)
	鶴澤 寛(返還・鳥栖)	古田 晴彦(渉外・宝塚)
	向井田 洋(渉外・仙台)	
	杉山 いずみ(連盟理事・徳島教会)	日原 広志(西南大/神学部長・有田)
事務局員	飯野 實(宮原)	

議案 8 2025年度全国壮年会連合一般会計修正予算(案)及び
2026年度全国壮年会連合一般会計予算(案)

単位:円

収入の部	2024年度	2025年度		2026年度
	決算	予算	修正予算	予算
1連合会費収入	2,314,500	2,500,000	2,500,000	2,500,000
2神学校献金繰入	1,500,000	1,500,000 ※1	1,500,000	1,500,000
3利息・雑収入	2,780	0	0	0
4その他	0	0	0	0
収入計 I	3,817,280	4,000,000	4,000,000	4,000,000
前年度繰越金	5,134,562	3,792,562	5,003,508	4,781,508
合計 III	8,951,842	7,792,562	9,003,508	8,781,508

支出の部	2024年度	2025年度		2026年度
	決算	予算	修正予算	予算
1会議運営費	1,108,325	1,900,000	1,050,000	1,050,000
①代表者会議旅費	385,865	600,000	400,000	400,000
②役員会議旅費	246,113	310,000 ※2	130,000	130,000
③奨学金委員会旅費	163,332	480,000 ※2	180,000	180,000
④合同委員会旅費	271,640	480,000 ※2	300,000	300,000
⑤会議事務費	41,375	30,000	40,000	40,000
2広報活動費	964,580	1,200,000	1,150,000	1,300,000
①広報費	724,580	800,000	750,000 ※4	800,000
②活動費	240,000	400,000 ※3	400,000 ※5	500,000
3事務局費	1,875,429	2,292,000	2,002,000	2,002,000
①旅費交通費	188,217	470,000	160,000	160,000
②事務通信費	119,719	100,000	120,000	120,000
③事務費	41,699	100,000	100,000	100,000
④備品購入費	0	30,000	30,000	30,000
⑤事務職員費	1,388,573	1,450,000	1,450,000	1,450,000
⑥協力伝道献金	132,000	132,000	132,000	132,000
⑦支払手数料	5,221	10,000	10,000	10,000
⑧雑費	0	0	0	0
4特別委員会費	0	0	0	0
5予備費	0	20,000	20,000	20,000
6その他	0	0	0	0
支出計 II	3,948,334	5,412,000	4,222,000	4,372,000
当年度収支差額 I－II	△ 131,054	△ 1,412,000	△ 222,000	△ 372,000
次年度繰越金 III－II	5,003,508	2,380,562	4,781,508	4,409,508
合計	8,951,842	7,792,562	9,003,508	8,781,508

※1. 2024年度神学校献金額(16,386,596円)の10%以内(前年と同額を繰り入れ)

※2. 対面会議の回数と新役員、新奨学金委員を考慮した

※3. 全国壮年大会への支援金20万円に、協力伝道派遣チームの支援金と研修会費用を含む

※4. リーフレット作成費含む

※5. バプテストフェスティバル参加費含む

議案9 2025-2026 年度全国壮年会連合奨学金委員会活動計画(案)

《活動方針》

下記規程・運営規則・覚書に基づいた活動を諸教会、全国壮年会連合、日本バプテスト連盟理事会、西南学院大学神学部等との協働によって行う。

「日本バプテスト連盟全国壮年会連合規約」	2024 年 8 月 23 日改定
「日本バプテスト連盟全国壮年会連合規約細則」	2024 年 8 月 23 日改定
「日本バプテスト連盟全国壮年会連合奨学金制度に関する規程」 (略称:全国壮年会奨学金規程)	2024 年 8 月 23 日改定
全国壮年会奨学金の給付及び貸与額等に関する細則	2023 年 8 月 24 日改定
「専ら伝道の業に従事する者に関する規程」	2019 年 8 月 22 日改定
神学校献金使途拡充による「覚書」(連盟と両神学校で締結)	2013 年 3 月 31 日締結
「神学校献金の用途拡大に関する覚書」	2025 年 2 月 7 日締結

1. 基本活動計画

- ①全国壮年会奨学金規程の所管事項第 6 条(1)～(3)による活動
 - *業務計画・予算案・業務報告書・決算書を全国壮年会連合役員会(以下、役員会)へ提案・提出する。
 - *奨学金の給貸与額・返還条件に関する基本方針を策定し、役員会へ提案する。
- ②同規程の所管事項第 6 条(4)～(5)による活動
 - *奨学生の募集、選考、給貸与額・返還条件を決定する。
 - *返還状況を確認し、遅滞者に督促する
- ③同規程の所管事項第 3 条 2 号、5 条 2 項による活動
 - *この制度の運営に関する年度の業務報告等を、役員会を経由し連盟理事会に報告する。
 - *連盟理事会、西南学院大学神学部との協働を明確にして、活動を行う。
- ④貸与奨学金返還遅延者に関しては、連盟理事会、推薦教会と緊密に連携し対応する。
- ⑤「神学校献金の使途拡充の件」に伴う「連合立等神学校奨学金」に関する、連盟理事会からの受託業務を行う。
- ⑥神学校献金の用途の拡大に関して、壮年会連合役員会と協議し、仕組みを構築してゆく。
- ⑦会計事務の省力化・効率化に向けた取り組みを行う。
- ⑧奨学金制度をより一層魅力的なものにして、献身者を生み出しやすくするための方策について検討して行く。

2. 奨学金委員会構成メンバー及び委員会の開催・出席

①構成メンバーと職務(委員の任期 2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)

氏 名	職 務	所 管 す る 事 項
北 村 慎 二	委員長 会 計	委員会の招集・議長、連盟・全国壮年会連合との調整 西南学院大学神学部との連絡調整に関すること 財務(収支および資金管理)に関すること 貸与額及び返還額の記録・管理に関すること

浦 瀬 佑 司	総 務	奨学金委員会で所管する規程に関する事 会議記録に関する事
鶴 澤 寛	返 還	対象者の管理に関する事 返還対象者及び推薦教会との連絡調整に関する事
古 田 晴 彦	渉 外	奨学生募集要項に関する事 貸与者(在学生)の管理に関する事 貸与者(在学生)及び推薦教会との連絡調整に関する事
向 井 田 洋	総務(副) 渉外(副)	会議記録に関する事 貸与者(在学生)の管理に関する事 貸与者(在学生)及び推薦教会との連絡調整に関する事
杉 山 い ず み	連盟担当理事	連盟理事会に関する事
日 原 広 志	神学部長	西南学院大学神学部に関する事

◎委員会陪席 全国壮年会連合 会長・監査・事務所職員

*向井田洋さんは田口清吾さんの退任に伴い向井田洋さん(仙台教会)を選任。

8月の総会で報告し承認を受けたい。

②奨学金委員会

第1回 2025年4月19日(土) 対面とZoom 併用

第2回 2025年12月13日(土) Zoom 会議

第3回 2026年1月24日(土) Zoom 会議

③壮年会連合役員会との合同役員会

第1回 2025年4月19日(土) 対面とZoom 併用

第2回 2026年2月28日(土) 対面とZoom 併用

④代表者等会議

2025年6月14日(土) 対面とZoom 併用

⑤西南学院大学神学部神学生との面談等

2025年11月1日(土) 神学生との面談等

⑥宣研主催新任牧師・主事研修会 2026年3月上旬(役員会対応)

連盟との協働による壮年会連合の取組事項「伝道者養成の業」を通じて壮年会連合の働きをアピール

3. 2025年度給・貸与奨学金

①2025年度給・貸与奨学金状況

(奨学金貸与者)

種別	人数	奨 学 生(推薦教会)
博士前期1年	1	長尾 基詩 (府中)
選科3年	1	石原 誠 (常盤台)
選科2年	1	大野 学 (釧路)
学部1年	1	渡辺 鷹優 (大阪中央)
合 計	4	

(奨学金額)

奨学金の種類	奨学金額
1 種奨学金(貸与):校納金対応(授業料+施設費+教育充実費)	3,616,000 円
2 種奨学金(給付):生活費対応等(寮費+図書援助費等)	1,640,000 円
合 計	5,256,000 円

1 種奨学金には 2024 年度に西南学院大学前払い金 848,000 円を含む

②2026 年度給貸与奨学金予定額(2025 年度奨学金貸与者を参考に予測)

種別	人数	奨学金予定額
博士前期 2 年	1	
博士前期 1 年		・1 種奨学金(貸与) 7,000,000 円
専攻科		
学部 4 年		・2 種奨学金(給付) 3,000,000 円
学部 3 年	3	
学部 2 年	1	合 計 10,000,000 円
選科 4 年	1	
選科 3 年	1	
神学部研修生		
合 計	7	

③連合立等神学校支援(奨学金)

	2025 年度	2026 年度
東京バプテスト神学校奨学金支援費用	160,000 円	480,000 円
九州バプテスト神学校奨学金支援費用	240,000 円	600,000 円

④連合立等神学校支援金(運営費)

	2025 年度	2026 年度
連合立等神学校支援金(運営費)	3,500,000 円	3,500,000 円

4. 貸与奨学金返還についての取組み

①2025 年度当初の奨学金貸与残高(在学生を含める)

- ・1 種 62,751,700 円(対象者 31 名)
- ・2 種 5,147,500 円(対象者 17 名)

②2025 年度奨学金返還予測額

- ・1 種 2,000,000 円(対象者 18 名)

・2種 0円(対象者 0名)

奨学金の返還業務については、以下の点を留意して遂行する。

- ①返還滞留者の発生を防ぐため重点管理をして行く。
- ②返還滞留者の発生を防ぐため返還計画書の提出を神学部卒業生全員に対し求めているが、併せて返還に対して自覚を促すためのフォローを徹底する。
- ③多様な機会を利用して、対象者と可能な限り面談の時を持つよう努める。
- ④神学生推薦教会との緊密な関係を保つよう努める。
- ⑤卒業生に対し、奨学金委員会との音信を絶やさぬよう生活状況の報告を求める。
- ⑥理事会に依頼している「専ら伝道の業に従事する者としての特別認定」についてフォローする。

以上

議案10 2025年度全国壮年会連合神学生奨学金会計修正予算(案) 及び
2026年度全国壮年会連合神学生奨学金会計予算(案)

I. 神学校献金会計

<収入>

(単位:円)

科 目	2024年度	2025年度		2026年度
	決 算	予 算	修 正 予 算	予 算
神学校献金(実質基準)	16,386,596	20,000,000	20,000,000	20,000,000
返還奨学金	1,104,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000
預金利息	7,415	1,000	400,000	400,000
その他	0	0	0	0
収入計	17,498,011	22,001,000	22,400,000	22,400,000
前年度より繰越金	186,681,709	160,383,034	196,436,720	207,048,720
収入総計	204,179,720	182,384,034	218,836,720	229,448,720

<支出>

科 目	2024年度	2025年度		2026年度
	決 算	予 算	修 正 予 算	予 算
奨学金制度運営費用	7,103,000	13,500,000	7,888,000	11,500,000
東京バプテスト神学校奨学金支援費用	640,000	480,000	160,000	480,000
九州バプテスト神学校奨学金支援費用	0	600,000	240,000	600,000
連合立神学校等支援金		3,500,000	3,500,000	3,500,000
支出計	7,743,000	18,080,000	11,788,000	16,080,000
次年度へ繰越金	196,436,720	164,304,034	207,048,720	213,368,720
支出総計	204,179,720	182,384,034	218,836,720	229,448,720
当年度収支差(収入計－支出計)	9,755,011	3,921,000	10,612,000	6,320,000

II. 奨学金制度運営会計

<収入>

科 目	2024年度	2025年度		2026年度
	決 算	予 算	修 正 予 算	予 算
神学校献金会計より繰り入れ	7,103,000	13,500,000	7,888,000	11,500,000
その他	0	0	0	0
収入合計	7,103,000	13,500,000	7,888,000	11,500,000

<支出>

科 目	2024年度	2025年度		2026年度
	決 算	予 算	修 正 予 算	予 算
神学生奨学金(当年度分)	4,755,000	12,000,000	4,408,000	8,000,000
(内訳)1種奨学金	2,615,000	8,000,000	2,768,000	5,000,000
(内訳)2種奨学金	2,140,000	4,000,000	1,640,000	3,000,000
神学生奨学金(翌年度分)	848,000	0	1,980,000	2,000,000
奨学金事務費(一般会計へ)	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000
その他	0	0	0	0
支出合計	7,103,000	13,500,000	7,888,000	11,500,000

議案 11 2025-2026 年度全国壮年会連合選挙管理委員会の任期の変更について

今回の全国壮年会連合定期総会の報告 1 として、全国壮年会連合規約細則第 23 条 2 項により、6 月 14 日に開催されました第一回代表者会議において、選挙管理委員が選出されましたが、選挙管理委員は 2 年任期となっております。

そこで、今年度の代表者会議後から 2027 年の第一回代表者会議までが任期となりますが、2027 年度は次期役員選挙の年となり、選挙期間中に選挙管理委員が交替することは好ましくないと考えます。

このため、今回の選挙管理委員の任期を特例として 1 年間とさせていただくことを提案致します。なお次期選挙管理委員からは従来通り 2 年任期となります。

任 期	選挙管理委員	役員選挙
2025 年第一回代表者会議後～2026 年第一回代表者会議	今回の選挙管理委員	2025 年度役員選挙
2026 年第一回代表者会議後～2027 年第一回代表者会議	次期の選挙管理委員	2027 年度役員選挙
2027 年第一回代表者会議後～2028 年第一回代表者会議		

議案 12 2026-2027 年度全国壮年会連合役員選挙に関する件

選挙管理委員長より、2026-2027 年度全国壮年会連合役員の立候補者を以下の通り報告いたします。

任期 2026 年 4 月 1 日～2028 年 3 月 31 日

会長立候補者 地方連合 所属教会・伝道所

○

副会長立候補者 地方連合 所属教会・伝道所

○

監査立候補者 地方連合 所属教会・伝道所

○

選挙で選出される会長より、以下の役員を指名推薦いたします。

事務局長 地方連合 所属教会・伝道所

○

会計 地方連合 所属教会・伝道所

○

書記 地方連合 所属教会・伝道所

○

議案 13 2026-2027 年度全国壮年会連合奨学金委員長選挙に関する件

選挙管理委員長より、2026-2027 年度全国壮年会連合奨学金委員長の立候補者を以下の通り報告いたします。

任期 2026 年 4 月 1 日～2028 年 3 月 31 日

奨学金委員長立候補者	地方連合	所属教会・伝道所
------------	------	----------

○

選挙により選出される委員長より、以下の委員（神学部代表、理事会担当理事を除く）4 名を指名推薦いたします。

奨学金委員	地方連合	所属教会・伝道所
-------	------	----------

○

奨学金委員	地方連合	所属教会・伝道所
-------	------	----------

○

奨学金委員	地方連合	所属教会・伝道所
-------	------	----------

○

奨学金委員	地方連合	所属教会・伝道所
-------	------	----------

○

議案 14 第 62 回（2027 年度）全国壮年大会担当地方連合の件

第 62 回（2027 年度）全国壮年大会は、 地方連合に担当していただくことを提案いたします。

議案 15 第 61 回（2026 年度）全国壮年会連合定期総会後からの総会議長の件

第 61 回（2026 年度）全国壮年会連合の総会までの議長は、関西地方連合から出していただくことが、昨年定期総会で承認されておりますが、それ以降の総会についての議長を、全国壮年会連合の規約細則第 18 条 1 項により、神奈川地方連合から、出していただくことを提案します。

任期 2026 年 8 月の全国壮年会連合の総会後より、2028 年の全国壮年会連合の定期総会まで